

\*当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型／海外／その他資産（商品）／インデックス型				
設定日	2020年11月27日				
信託期間	無期限				
運用方針	この投資信託は、主として上場投資信託証券への投資を通じて、金地金に実質的に投資を行い、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）の騰落率に概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。なお、実質的な外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行います。				
主な投資対象	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">スイス籍外国投資信託 UBS ETF (CH) ゴールド (USD)</td> <td>金地金への投資を通じて、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（米ドルベース）に概ね連動する投資成果を目指します。</td> </tr> <tr> <td>UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）</td> <td>わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な主たる投資対象とし、円短期金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。</td> </tr> </table>	スイス籍外国投資信託 UBS ETF (CH) ゴールド (USD)	金地金への投資を通じて、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（米ドルベース）に概ね連動する投資成果を目指します。	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な主たる投資対象とし、円短期金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。
スイス籍外国投資信託 UBS ETF (CH) ゴールド (USD)	金地金への投資を通じて、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（米ドルベース）に概ね連動する投資成果を目指します。				
UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な主たる投資対象とし、円短期金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。				
主な投資制限	<p>①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。      ②株式への直接投資は行いません。      ③外貨建資産への投資割合には制限を設けません。      ④デリバティブ取引の直接利用は行いません。ただし、指定上場投資信託においてはデリバティブ取引（法人税法第61条の4に定めるものをいいます。）を行う場合があります。その場合は、価格変動、金利変動および為替変動により生じるリスクを減らす目的ならびに投資対象とする資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。      ⑤同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。ただし、当該投資信託証券が一般社団法人投資信託協会の規則に定めるエクスポージャーがルックスルールでできる場合に該当しないときには、当該投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。      ⑥一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。</p>				
分配方針	<p>毎決算時（原則毎年9月5日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の総越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。      ②収益分配金額は、上記①の範囲内で、市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、委託者の判断で、分配を行わないことがあります。      ③収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。</p>				

## UBS ゴールド・ファンド (為替ヘッジあり)

第2期 運用報告書（全体版）  
決算日 2022年9月5日

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「UBSゴールド・ファンド（為替ヘッジあり）」は、去る9月5日に第2期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

### UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号  
Otemachi Oneタワー

<お問い合わせ先>

投信営業部

03-5293-3700

<受付時間>

営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く

<http://www.ubs.com/japanfunds>

© UBS 2022. キーンズボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

## 設定以来の運用実績

決算期	基準価額	税込分配金	期騰落率	ベンチマーク ロンドン貴金属 市場協会（LBMA） 金地金価格（円ヘッジ、 円換算ベース）	期騰落率	投資信託 証券組入比率	純資産額
(設定日) 2020年11月27日	円 10,000	円 —	% —	10,000	% —	% —	百万円 110
1期（2021年9月6日）	10,135	0	1.4	10,007	0.1	98.3	204
2期（2022年9月5日）	9,375	0	△7.5	9,297	△7.1	100.8	314

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注3) 設定日の純資産額は、設定元本を表示しております。

(注4) ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）は、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（米ドルベース）に基づき、委託会社において円ヘッジし円換算したものです。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

(注5) 投資信託証券組入比率は、当ファンドの追加・解約と有価証券売買の計上タイミングがずれること等により、一時的に100%超の数値となる場合があります。（以下同じ）

## 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	ベンチマークロンドン貴金属市場協会 (LBMA) 金地金価格 (円ヘッジ、円換算ベース)		投証比	資券信組託入率
		騰落率	騰落率		
(期首) 2021年 9月6日	円 10,135	% –	10,007	% –	% 98.3
9月末	9,603	△5.2	9,524	△4.8	100.6
10月末	9,983	△1.5	9,891	△1.2	99.4
11月末	9,883	△2.5	9,792	△2.1	97.8
12月末	9,960	△1.7	9,831	△1.8	99.3
2022年 1月末	9,853	△2.8	9,796	△2.1	99.2
2月末	10,398	2.6	10,323	3.2	98.4
3月末	10,661	5.2	10,599	5.9	98.0
4月末	10,359	2.2	10,317	3.1	99.7
5月末	10,198	0.6	10,139	1.3	97.8
6月末	9,957	△1.8	9,911	△1.0	99.7
7月末	9,593	△5.3	9,550	△4.6	96.1
8月末	9,418	△7.1	9,398	△6.1	99.6
(期末) 2022年 9月5日	9,375	△7.5	9,297	△7.1	100.8

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 謄落率は期首比です。

(注3) ロンドン貴金属市場協会(LBMA)金地金価格(円ヘッジ、円換算ベース)は、ロンドン貴金属市場協会(LBMA)金地金価格(米ドルベース)に基づき、委託会社において円ヘッジし円換算したものです。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

※ロンドン貴金属市場協会(LBMA)金地金価格はICE Benchmark Administration Limitedによってロンドン時間の午後に公表される金地金価格を指します。

## 運用経過

### 基準価額等の推移について

(2021年9月6日～2022年9月5日)



第2期首：10,135円

第2期末： 9,375円（既払分配金 0円）

騰落率： -7.5%（分配金再投資ベース）

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で760円値下がりしました。なお、基準価額の騰落率は-7.5%となりました。

### ベンチマークについて

ベンチマークとは、ファンドの運用を行うに当たり、運用目標の基準あるいはパフォーマンスを評価するための基準です。なお、当ファンドのベンチマークは「ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（米ドルベース）」を委託会社において円ヘッジ円換算した「ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）」です。また、当ファンドはベンチマークに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

\*ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格はICE Benchmark Administration Limitedによってロンドン時間の午後に公表される金地金価格を指します。

## 基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、組入上場投資信託の下落や為替ヘッジコストが主なマイナス要因となり、値下がりしました。

## 投資環境について

当期の金価格は下落しました。期の前半、世界的なインフレ懸念の高まりを背景とした金需要の増大に加え、2022年2月にはロシアのウクライナ侵攻を受けて有事の安全資産とされる金が買われたことから、金価格は上昇しました。しかしその後半は、米連邦準備制度理事会（FRB）が積極的な金融引き締めを実施し、米国金利が上昇した影響などにより金価格は反落しました。

## ポートフォリオについて

### 当ファンドのポートフォリオについて

上場投資信託であるUBS ETF (CH) ゴールド (USD) およびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）を投資対象とします。主として上記上場投資信託への投資を通じて、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）金地金価格（円ヘッジ、円換算ベース）の騰落率に概ね連動する投資成果を目指しました。外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。上記上場投資信託の組入比率は、期を通じて高位を維持しました。

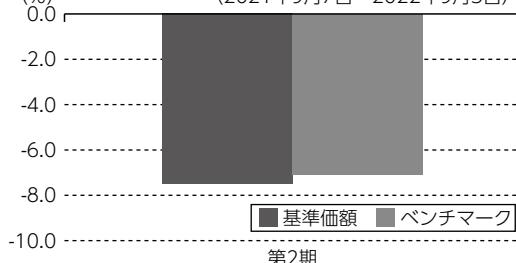
### UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）のポートフォリオについて

UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債に投資を行い、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、コール・ローン等での運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当期の騰落率は、基準価額の-7.5%に対しでベンチマークが-7.1%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を0.4%下回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を下回った主な要因は、信託報酬の負担などによるものです。

### 基準価額とベンチマークの対比（騰落率） (2021年9月7日～2022年9月5日)



(注) 基準価額の騰落率は分配金再投資ベース

## 分配金について

市場動向等を勘案し、分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### 分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項目	第2期
	2021年9月7日～2022年9月5日
当期分配金	－円
(対基準価額比率)	(－%)
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	－円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### 当ファンドの今後の運用方針

UBS ETF (CH) ゴールド (USD) の投資比率を高位に維持し、ベンチマークに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。また、外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図ります。

### UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）の今後の運用方針

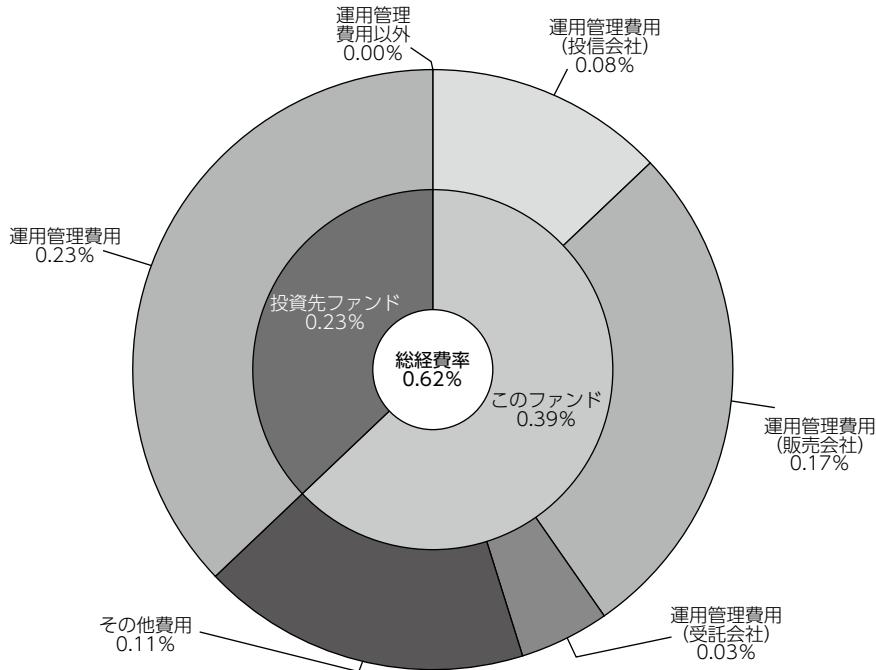
短期金融市場の状況を注視しつつ、UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、コール・ローン等で運用する予定です。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期 2021/9/7～2022/9/5		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	27円	0.274%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は9,988円です。
（投信会社）	( 8)	(0.077)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(16)	(0.165)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	( 3)	(0.033)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
売買委託手数料	7	0.067	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（投資信託証券）	( 7)	(0.067)	投資信託証券を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
その他費用	11	0.111	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	( 3)	(0.030)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	( 2)	(0.022)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	( 5)	(0.055)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	( 0)	(0.005)	海外の税務手続きに関する費用等
合計	45	0.452	

- (注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。
- (注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。
- (注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

## (参考情報) 総経費率



<b>総経費率 (①+②+③)</b>	<b>0.62%</b>
①このファンドの費用の比率	0.39%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

- (注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- (注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。
- (注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
- (注4) 各比率は、年率換算した値です。
- (注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- (注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.62%です。

## 期中の売買及び取引の状況（自 2021年9月7日 至 2022年9月5日）

## 投資信託証券

	買付		売付	
	□数	金額	□数	金額
外国				
UBS ETF (CH) ゴールド (USD)	□ 21,521	千米ドル 1,230	□ 11,707	千米ドル 713

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切り捨て。

## 利害関係人等との取引状況等（自 2021年9月7日 至 2022年9月5日）

期中の利害関係人等との取引はありません。

(注) 利害関係人等とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人等です。

## 組入資産明細表（2022年9月5日現在）

## (1) 国内投資信託証券（邦貨建）

ファンド名	期首	当期末		
	□数	□数	評価額	比率
UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	□ 10,046	□ 10,046	千円 9	% 0.0
合計	10,046	10,046	9	0.0

(注) 単位未満は切り捨て。

## (2) 外国投資信託証券（外貨建）

ファンド名	期首	当期末		
	□数	□数	評価額	比率
		外貨建金額	邦貨換算金額	
UBS ETF (CH) ゴールド (USD)	□ 30,960	□ 40,774	千米ドル 2,260	千円 317,262 % 100.8
合計	□数・金額	30,960	40,774	2,260 317,262
	銘柄数 <比率>	1	1	- <100.8%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=140.35円です。

(注2) &lt;&gt;内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

## 投資信託財産の構成

(2022年9月5日現在)

項 目	当期末	
	評価額	比率
投 資 信 託 受 益 証 券	千円 9	% 0.0
投 資 証 券	317,262	95.6
コール・ローン等、その他の	14,446	4.4
投 資 信 託 財 産 総 額	331,717	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産（314,226千円）の投資信託財産総額（331,717千円）に対する比率は94.7%です。

(注3) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル＝140.35円です。

## 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年9月5日現在)

項 目	当期末
(A) 資 産	651,498,043円
コール・ローン等	14,385,043
投資信託受益証券(評価額)	9,975
投 資 証 券(評価額)	317,262,657
未 収 入 金	319,840,368
(B) 負 債	336,705,521
未 払 金	336,354,181
未 払 解 約 金	15,409
未 払 信 託 報 酬	256,246
未 払 利 息	40
そ の 他 未 払 費 用	79,645
(C) 純 資 産 総 額(A - B)	314,792,522
元 本	335,771,928
次 期 繰 越 損 益 金	△ 20,979,406
(D) 受 益 権 総 口 数	335,771,928口
1万口当たり基準価額(C / D)	9,375円

## 〈注記事項〉

期首元本額 201,563,994円  
 期中追加設定元本額 200,935,600円  
 期中一部解約元本額 66,727,666円  
 1口当たり純資産額 0.9375円  
 純資産総額が元本を下回っており、その差額は20,979,406円です。

## 損益の状況

(自2021年9月7日 至2022年9月5日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益 支 払 利 息	△ 5,014円 △ 5,014
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益 売 買 益 売 買 損	△17,045,729 56,782,779 △73,828,508
(C) 信 託 報 酉 等	△ 739,683
(D) 当 期 損 益 金(A + B + C)	△17,790,426
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 500,465
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金 (配 当 等 相 当 額) (売 買 損 益 相 当 額)	△ 2,688,515 (△ 9,149) (△ 2,679,366)
(G) 計 (D + E + F)	△20,979,406
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(G + H)	△20,979,406
追 加 信 託 差 損 益 金 (配 当 等 相 当 額) (売 買 損 益 相 当 額)	△ 2,688,515 (△ 9,149) (△ 2,679,366)
繰 越 損 益 金	△18,290,891

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)より分配対象収益は0円(10,000口当たり0円)ですが、分配を行っておりません。

## UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）

### 参考情報

当ファンドは、UBSゴールド・ファンド（為替ヘッジあり）が投資対象とする国内投資信託証券です。ご参考として第13期決算日（2022年1月20日）の運用状況をご報告申し上げます。

## UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）

### 最近5期の運用実績

決算期	基準価額	税込み分配金	期騰落率	債券組入率	債券先物率	純資産額
9期（2018年1月22日）	円 9,997	円 0	% △0.1	% —	% —	百万円 40
10期（2019年1月21日）	9,982	0	△0.2	—	—	40
11期（2020年1月20日）	9,967	0	△0.2	—	—	40
12期（2021年1月20日）	9,953	0	△0.1	—	—	15
13期（2022年1月20日）	9,938	0	△0.2	—	—	8

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

### 当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額	騰落率		債券組入率	債券先物率
		比	率		
(期首) 2021年 1月20日	円 9,953		% —	% —	% —
1月末	9,952		△0.0	—	—
2月末	9,951		△0.0	—	—
3月末	9,950		△0.0	—	—
4月末	9,949		△0.0	—	—
5月末	9,948		△0.1	—	—
6月末	9,947		△0.1	—	—
7月末	9,946		△0.1	—	—
8月末	9,944		△0.1	—	—
9月末	9,943		△0.1	—	—
10月末	9,942		△0.1	—	—
11月末	9,941		△0.1	—	—
12月末	9,940		△0.1	—	—
(期末) 2022年 1月20日	9,938		△0.2	—	—

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 謄落率は期首比です。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

## 分配原資の内訳

(1万口当たり・税引前)

項目	第13期	
	2021年1月21日～2022年1月20日	
当期分配金 (対基準価額比率)	一円	(-%)
当期の収益	一円	
当期の収益以外	一円	
翌期繰越分配対象額	75円	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2021/1/21～2022/1/20	金額	比率
信託報酬	4円	0.044%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は9,946円です。
(投信会社)	(1)	(0.011)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(0)	(0.001)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.032)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用 (その他)	0	0.002	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
合 計	4	0.046	受益権の管理事務に関連する費用等

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況（自 2021年1月21日 至 2022年1月20日）

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
UBS短期円金利プラス・マザーファンド	千口 20	千円 20	千口 7,000	千円 7,000

(注) 単位未満は切り捨て。

## 利害関係人等との取引状況等（自 2021年1月21日 至 2022年1月20日）

期中の利害関係人等との取引はありません。

(注) 利害関係人等とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人等です。

## 組入資産明細表

## 親投資信託残高

(2022年1月20日現在)

項 目	期 首		当 期 末	
	□ 数	千口	□ 数	評 価 額
UBS短期円金利プラス・マザーファンド	15,588	千口 15,588	8,608	千円 8,602

(注) □数・評価額の単位未満は切り捨て。

## 投資信託財産の構成

(2022年1月20日現在)

項 目	当期末	
	評価額	比率
千円	8,602	99.8
コール・ローン等、その他	15	0.2
投資信託財産総額	8,617	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨て。

## 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年1月20日現在)

項 目	当期末
(A) 資産	8,617,321円
コール・ローン等	14,383
UBS短期円金利プラス・マザーファンド(評価額)	8,602,938
(B) 負債	1,953
未払信託報酬	1,866
その他未払費用	87
(C) 純資産総額(A-B)	8,615,368
元本	8,668,768
次期繰越損益金	△ 53,400
(D) 受益権総口数	8,668,768口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,938円

## 〈注記事項〉

期首元本額	15,687,365円
期中追加設定元本額	20,116円
期中一部解約元本額	7,038,713円
1口当たり純資産額	0.9938円
純資産総額が元本を下回っており、その差額は53,400円です。	

## 損益の状況

(自2021年1月21日 至2022年1月20日)

項 目	当期
(A) 有価証券売買損益	△ 6,803円
売    買    益    益	3,497
売    買    損    損	△ 10,300
(B) 信託報酬等	△ 5,413
(C) 当期損益金(A+B)	△ 12,216
(D) 前期繰越損益金	△ 44,285
(E) 追加信託差損益金	3,101
(配当等相当額)	( 4,222)
(売買損益相当額)	(△ 1,121)
(F) 計	△ 53,400
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△ 53,400
追加信託差損益金	3,101
(配当等相当額)	( 4,221)
(売買損益相当額)	(△ 1,120)
分配準備積立金	60,965
繰越損益金	△ 117,466

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものも含みます。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(4,221円)および分配準備積立金(60,965円)より分配対象収益は65,186円(10,000口当たり75円)ですが、分配を行っておりません。

## UBS短期円金利プラス・マザーファンドの運用状況

### 参考情報

当ファンドは、UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）が投資対象とする親投資信託で、信託財産の実質的な運用を行っております。

ご参考として、第13期決算日（2022年1月20日）の運用状況をご報告申し上げます。

### UBS短期円金利プラス・マザーファンド

#### 最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 謄 中 落 率	債 券 組 入 率	債 券 先 物 率	純 資 総 産 額
9期（2018年1月22日）	円 10,035	% △0.1	% —	% —	百万円 40
10期（2019年1月21日）	10,025	△0.1	—	—	40
11期（2020年1月20日）	10,014	△0.1	—	—	40
12期（2021年1月20日）	10,004	△0.1	—	—	15
13期（2022年1月20日）	9,994	△0.1	—	—	8

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

#### 当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		債 券 組 入 率	債 券 先 物 率
		騰	落		
(期 首) 2021年 1月20日	円 10,004		% —	% —	% —
1月末	10,004		0.0	—	—
2月末	10,003		△0.0	—	—
3月末	10,002		△0.0	—	—
4月末	10,002		△0.0	—	—
5月末	10,001		△0.0	—	—
6月末	10,000		△0.0	—	—
7月末	9,999		△0.0	—	—
8月末	9,998		△0.1	—	—
9月末	9,997		△0.1	—	—
10月末	9,997		△0.1	—	—
11月末	9,996		△0.1	—	—
12月末	9,995		△0.1	—	—
(期 末) 2022年 1月20日	9,994		△0.1	—	—

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 謄落率は期首比です。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

## 1万口当たりの費用明細

該当事項はありません。

## 期中の売買及び取引の状況（自 2021年1月21日 至 2022年1月20日）

該当事項はありません。

## 主要な売買銘柄（自 2021年1月21日 至 2022年1月20日）

該当事項はありません。

## 利害関係人等との取引状況等（自 2021年1月21日 至 2022年1月20日）

期中の利害関係人等との取引はありません。

(注) 利害関係人等とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人等です。

## 組入資産明細表（2022年1月20日現在）

2022年1月20日現在、有価証券等の組入はありません。

## 投資信託財産の構成

(2022年1月20日現在)

項 目	当期末	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 8,603	% 100.0
投資信託財産総額	8,603	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨て。

## 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年1月20日現在)

項 目	当期末
(A) 資産	8,603,221円
コール・ローン等	8,603,221
(B) 負債	24
未払利息	24
(C) 純資産総額(A-B)	8,603,197
元本	8,608,103
次期繰越損益金	△ 4,906
(D) 受益権総口数	8,608,103口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,994円

## 〔注記事項〕

期首元本額	15,588,797円
期中追加設定元本額	20,007円
期中一部解約元本額	7,000,701円
1口当たり純資産額	0.9994円
純資産総額が元本を下回っており、その差額は4,906円です。	

## 〔当マザーファンドの当期末における元本の内訳〕

UBS短期円利プラス・ファンド（適格機関投資家向け） 8,608,103円

## 損益の状況

(自2021年1月21日 至2022年1月20日)

項 目	当期
(A) 配当等収益	△12,393円
支払利息	△12,393
(B) 当期損益金(A)	△12,393
(C) 前期繰越損益金	6,793
(D) 追加信託差損益金	△ 7
(E) 解約差損益金	701
(F) 計(B+C+D+E)	△ 4,906
次期繰越損益金(F)	△ 4,906

(注1) 損益の状況の中で(D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注2) 損益の状況の中で(E)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。